

障害者の住環境整備 ～住宅改修事例紹介～

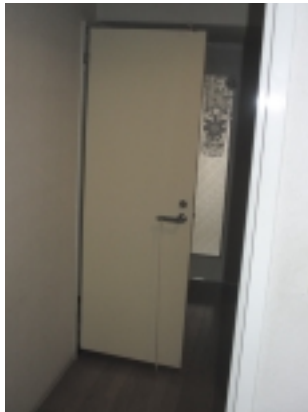
川村義肢(株) 福祉住環境コーディネーター 井脇 泰弘

Aさん宅には中学二年生の双子の姉妹がいます。二人は脳性麻痺で、うち一人は、痙直型両麻痺で屋内は四つ這いで移動を行い、物をつかみながら立ち座りすることができます。もう一人は痙直型四肢麻痺で日常生活の多くは介助がメインになっています。

今の住まいに移り住んで10年、OTの先生の指導を受けながら、いろいろ工夫して暮らしてこられました。お子さんたちが成長され、身長が伸びてきたこともあり、生活の中で不都合や不便を感じる箇所が出てきました。

「子どもたちが自分と同じくらいの体格になったとき、今までのように抱きかかえられるかは疑問です」とお母さん。将来、ライフスタイルが変化しても快適に暮らしていけるようにと、住宅改修を行うことになりました。

トイレ



(写真①)



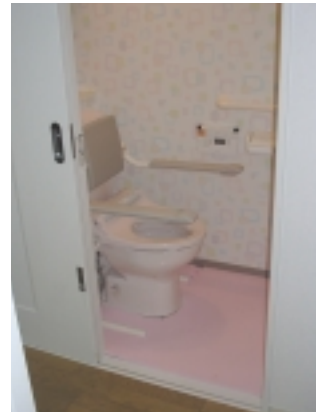
(写真②)

トイレは元々外開きのドア(写真①)だったため、四つ這いからの姿勢でトイレへ入るにはまずレバーをひもで引っ張ってドアを開け、次にドアの動きに合わせて前後に動かなければなりません。頻度も他の日常動作に比べ高いので、改善を希望されていました。今回の改修では入り口の幅を広げて引き戸にし(写真②)、取っ手を低い位置にも取り付けすることで開け閉めもしやすくなり、一人で出入できるように工夫されています。2cmの敷居の段差もなくなりました。

改修前は照明のON・OFFや排泄後の便器洗浄の操作もお母さんに頼んでいましたが、新しいトイレでは照明は人感センサーで自動に、便器も自動洗浄機能付きのものになり、一人ですべてできるようになりました。また今まで手作りの手すり(写真③)が使われていましたが、古くなっていました。介助時にフレームが邪魔になることもあり、両サイドのひじ掛けが跳ね上がるタイプの手すりをあらたに設置されました(写真④)。L型の手すりを使用することで、衣服の着脱も安定した姿勢でおこなえます。



(写真③)



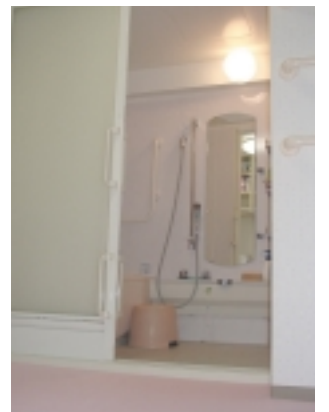
(写真④)

浴室

今まで浴室の出入り口は折戸(写真⑤)でしたが、子供さんが成長するにつれて、ひじが扉に当たるようになり、介助しながらの出入りが大変になってきていました。また両麻痺



(写真⑤)



(写真⑥)

の子が開け閉めするには思った以上に力が必要で、入り口の段差が15cmと高いこともあり、浴室への出入りが負担になっていました。工事後は入り口が引き戸になり、幅が広がったため、介助しながらの出入りがしやすくなりました。また扉の低い位置に取っ手をつけることで、自分で開け閉めできるようにもなり、家族に気兼ねなく入浴を楽しむことができるようになりました。(写真⑥) 照明スイッチも同様に手の届くところに増設されています。

また将来リフトの導入ができるように天井がフラットタイプのユニットバスを選びました。ドーム型の天井の場合、取り付けが難しい場合があります。洗面器置きもあまりスペースをとらないものを選択し、リフト使用時に邪魔にならないように考えられています。

壁裏にはどこにでも手すりが付けられるように補強を入れてあるため、将来、身体状況やライフスタイルが変化しても適切な位置に手すりを取り付けることができます。

歯磨きも自分で

以前はお母さんに支えられ、不安定な状態で歯を磨かれていましたが、自分でできることは自分で、という考えのもと、洗面スペースも改修しました。まず段階的に三段に分けた手すり(写真⑦)を持って、立ち上がり、L型の手すりを使って立位を保ちます。洗面台の固定も補強することで、もたれて



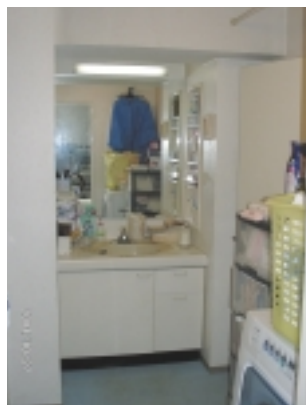
(写真⑦)



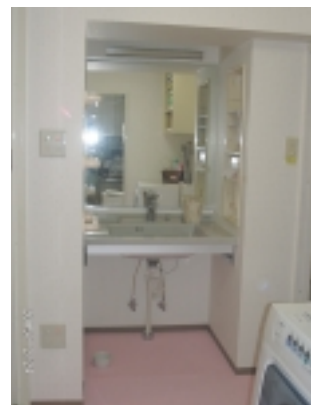
(写真⑧)

でも歯磨きができるようになりました。洗面ボウルも以前より広くなり(写真⑨)、水がこぼれにくく機能的です。

また車いすでも無理なく使えるように収納部をオープンにし、足元のスペースが確保されています(写真⑨、⑩)。



(写真⑨)



(写真⑩)

おわりに

今回の改修を終え、「使いやすくなった、と発見の毎日です。」とお母さん。OTの先生も交え、自立と動線をテーマにしたプランニングが納得の住宅改修につながったようです。工事完了後にお母さんより寄せられたお手紙の一節が印象的です。「子どもの動きを中心として考えると、あってもなくてもかまわないものが、あるととても困ったり、高さがちょっと違うだけでとても使いにくいものになってしまいます。それをわかってもらえて相談できることで、とても楽になりました。」

このような本人や家族の言葉は、住環境整備を計画する上で大きなヒントになり、相談員がどういう視点で相談業務に携わっていけばよいかを示しているように感じます。

今回で住宅改修の連載は最後になりましたが、今後もこのような事例や情報をいろいろな形で提供していくことで、自立や自己実現につながる住環境整備が少しでも増えていくことを願っています。